

## 人との出会い

二年 奥山ひろみ（昭和六一年度）

私は、これまで様々な所へ行き、色々な人達と出会いました。この夏休みも、酒田へ渡り、何人かの人達と出会いました。

学校行事の一つである鳥海登山でのことです。私は、七月二十四日に終業式が終わり、その日に酒田へ渡りました。二十五日の午後山荘へ向かい、忘れもしない七月二十六日に初めて鳥海山に登ったのです。まだ半分も登っていないのに疲れてしまいました。それから出会う人達みんなと挨拶を交わしたり、色々な事を聞いたりしました。出会う人みんなが挨拶をしてくれて、とても気持ち良かったです。でも私は、本当の事を言えば、挨拶をあまりしませんでした。みんな良い人達ばかりだったのに……。苦しかったけれど登って本当に良かったと思います。先頭に立って道案内をしてくれた長堀さんも、とても感じの良い人でした。そして、長堀さんは、大きな荷物を背負い、私達に転ばないように声をかけてくれたり、登る先々で場所の説明をしてくれたり、何度も何度も「頑張れよ」と言って下さいました。そして、新山の手前の神社で休憩している時に、長堀さんが重そうな荷物の

中に、西瓜を入れていたのには、びっくりさせられました。長い道のりを背負ってきてくれたのでした。私達のためを思って下さったのだと思いました。もちろんその西瓜の味は、今でもはつきりと覚えています。ここで長堀さんに、もう一度お礼を言いたいと思います。『本当にどうもありがとうございます。』

それから八月一日のことです。私は友達と酒田駅に行くためバスに乗りました。お金を払おうとして。「中学生はいくらですか？」と聞いたのです。そうしたら、運転手さんが「百円です。」と答えてくれました。そして私は、もう一度「小学生は？」と聞いたら。「五十円です。」と丁寧に言葉で答えてくれました。それからお金を払おうとした時です。運転手さんが「鳥海山さ。行った時のあの生徒でねが？」と聞かれました。私は、どうして自分達のことを知っているのだらうと思いました。「はい、行きました。」と答えてから、運転手さんの顔を見ました。そうしたら、「あつ」と驚きました。その人は、鳥海山で思い荷物の中に、西瓜を入れて先頭してくれたあの長堀さんだったのです。あの人がバスの運転手をしているとは思ってもみませんでした。そして、会釈をしてバスを降りました。買い物済ませ家へもどろうとした時でした。バスを待っていてどこへ行くバスか見ないで反対の方向に行くバスに乗ってしまいました。ちよつと行った時に、友達の一人が。「金峰で来たことのある道だ」と言い

ました。私は『おやつ』と思いました。でも乗っていれば着くと思ひ、ずつと乗っていたら、バスターミナルに着きました。そして、バスが変な所へ入って行きました。それは、よくガソリンスタンドで見かける車を洗う所でした。『やっぱり間違えたんだ。』と分かりました。それで間違えた分のお金を支払って、違うバスに乗せてもらいました。そこでも、運転手さん達は優しく声をかけてくれたのです。私達はお陰で、無事に家にたどり着くことができました。

このように、ちよつとした出会いだったかもしれませんが、心の中に残るものが大きい様な気がします。これから、どんな小さな出会いでも、素直な心で受け止めていきたいと思っています